

農業体験やってみた in 葛川 ～農業従事者を増やすために～

小林香乃

1. はじめに

高校 1 年生の夏休み、家庭科の授業の一環としてホームプロジェクトを行った。その第一歩として、私は家庭内の課題について考えることにした。私の両親は青森県平川市の葛川地区で農業を営んでおり、仕事はかなり大変だといつも口にしていて。また、私は高校入学を機に弘前市内の下宿で一人暮らしを始めたため、家族と過ごす時間がかなり少なくなっている。このことから、①私自身の農業に関する理解が浅い、②家族と過ごす時間が少ないという課題が挙げられた。この 2 つを解決するために、ホームプロジェクトで農業体験を実施しようと考えた。

葛川地区は私が生まれ育った村である。自然が豊かで、のどかな村である。現在、人口は約 50 人、約 30 世帯が暮らしているが、18 歳以下の子どもは暮らしていない。住民の大多数が農業を営んでおり、抑制栽培による高原野菜の栽培が盛んである。

2. 農業体験の実践

2023 年 8 月 12 日、早朝 2 時に起きて、山の上にある畑まで母が運転する軽トラックで移動した。街灯などもなく、夜中ということもあり、夜空に浮かぶ星が鮮明に見えた。この日は夏の大三角を見ることができた。天気が良ければ、天の川も見られるという。夜間の作業中はヘッドライトをつけて作業を行った。

まず、キャベツの収穫を行った。キャベツは周りの葉を避けて茎を探し、探し出した茎を包丁で切って収穫する。最も大変な作業は、収穫したキャベツが入ったコンテナを軽トラックの荷台に積み込む作業だった。約 20kg のコンテナを積み込むのは、かなり腰に負担がかかる作業だった。

つぎに、苗植えである。この日の農作業で最も大変だったのがこの作業だ。野菜は種を畑に直接蒔かず、ビニールハウスである程度育ててから畑に植え替える。まだデリケートな苗を傷つけずに丁寧に畑に植え替えるコツを掴むのに苦労した。2 ヶ月後、母から私が植えたキャベツの写真が送られてきた。あの時の小さな苗からは想像もできないくらい大きく、立派に成長していた。このキャベツたちがどのような人の手に渡り、どのような料理に姿を変えるのかにとっても興味をもった。

最後は草取りである。一見、とても地味な作業であるが、知らないうちに体に負担がかかる。また、広い畑を手作業で行うにはかなり時間もかかる。除草剤を撒けばいいと思われるかもしれないが、除草剤をかけ過ぎてしまうと、農作物に悪い影響が出てしまう。そのため

草取りは地味ながらもとても大切な作業になる。

3. 実施結果

今回、母とともに農作業を行ったところ、母の1日の労働時間を3時間減らすことができた。この3時間は家事や家族との団欒、休憩や睡眠時間にあてることができた。

なお、課題①については、今回、初めて本格的に農作業を体験したため、本当の農業の大変さを知ることができた。今まで仕事から帰ってきた両親を労ったり、家事を手伝ったりしたことがなかったことをとても後悔している。また、今まで忘れかけていた自然に触れる楽しさをこの機会に思い出すことができた。

課題②については、今回は久しぶりに母と一日中過ごすことができて嬉しかった。父とは別行動だったが、夕食を一緒に食べたり、この日あったことを話したりすることができた。農業という共通の話題ができたことを嬉しく思う。

4. 農業体験+α

現在、青森県内の農業従事者の減少が問題になっている。その背景として、農業に対するマイナスなイメージ、「きつい・汚い・かっこ悪い」（農業の3K）が若者の間で広まっているように思われる。しかし、今回、農業体験を实践してみて、自然に触れる楽しさ、農業の自由さ、人と一緒に何かに取り組むことの楽しさを学んだ。そこから私が強く思ったことは、みなさんにも農業を体験してみしてほしいということである。

しかし、ただの農業体験では、新規の参加者が獲得しづらいのではないかと考えた。そこで、私は「農業体験+α」として、3つの追加的なメリットを考えてみた。

それは、第1に、農作業を行いながら、異文化コミュニケーションを取れることである（農業体験+国際交流）。第2に、農業を体験しながら、結婚相手を探せることである（農業体験+婚活）。第3に、給料の代わりに、畑で採れた新鮮な野菜がもらえることである（農業体験+アルバイト）。これらを通して、多くの人が農業の楽しさを実感し、農業を生活の中に取り込んでほしいと考えている。そして、そのことが農業人口の増加につながることを期待している。

5. おわりに

現在、青森県の食料自給率は約120%（カロリーベース）と比較的高くなっているし、みなさんも畑が広がる景色を見たことがあるだろう。しかし、県内の農業従事者は年々減少し、高齢化も指摘されている。農業の問題は未来の問題として、みなさんが考えるべき問題である。私はこれからも農業の課題について考えていきたい。そして、いつか農業に関わる仕事に就いたとき、この経験を活かしたい。また、今回は母とともに手作業で行ったので、次回は父と一緒にトラクターなどに乗ってみたいと思っている。

（小林香乃 弘前高等学校）